

■安田靱彦 日本画家。古典追求で歴史画に新生面を開き、新古典主義と呼ばれて院展の主流となった。

やすだゆきひこ

秩父事件・・・1884＝ 東京日本橋に生まれる。生家は江戸時代から続いた「百尺」という料亭。

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

生来身体が弱く、

郡司千島探検1893＝ 9歳：

日清戦争始・・・1894＝10歳：

白馬会・・・1896＝12歳：小学校高等科3年で退学。近くの私塾で四書や「日本外史」を学ぶ。絵を好んで描く。父が死去。

八幡製鉄始・・・1897＝13歳：法隆寺壁画の模写や横山大観、下村観山、小堀鞆音らの作品に接して感激し、画家になろうと決心。

子規句歌革新1898＝14歳：大和絵の小堀鞆音に入門。雅号靱彦は鞆音の師川崎千虎がつけた。同門の磯田長秋らと「紫紅会」を結成、

Bushidou・・・1899＝15歳：院展で「栗津のわかれ」が2等。

ビヲノ国産化・・・1900＝16歳：*今村紫紅が加わり、名称を「紅児会」と改める。画壇の若い革新派として注目され、新傾向の歴史画を探索する。院展で「遣唐使」が2等。

田中正造直訴1901＝17歳：東京美術学校に在籍するがあきたらず、退学し、「紅児会」展に出品をつづける。

教科書疑獄・・・1902＝18歳：京都、奈良に遊び古美術に接し100余枚の写生をする。

日露戦争終・・・1905＝21歳：

韓国反日暴動1907＝23歳：岡倉天心を中心とする「国画玉成会」の創立に加わり評議員となる。天心にその資質を認められ、五浦の研究所にも招かれ、その勧めで奈良で古美術研究に従う。文展で「豊公」が3等。健康を害し、帰京。

アヲヲ創刊・・・1908＝24歳：「国画玉成会」に「守屋大連」を出品。排仏派の頭目物守屋の心理を洋風の陰影を加えてたくみに表現したこの傑作により、頭角を現すが、発病し療養を余儀なくされる。制作は静養中にもつづき、

大逆事件判決1911＝27歳：天心の配慮で三溪原富郎の庇護を受けるようになり、郎に招かれて古名画鑑賞の会を通じて良寛の書を知り、その人格と芸境に傾倒、短歌にもうちこむ。

明治天皇没・・・1912＝28歳：*第6回文展に「夢殿」を発表2等。夢殿で瞑想にふける聖徳太子の姿を想像力豊かに淡く柔らかに描いたこの作品によって歴史画家としての地位を確立した。

大正政変・・・1913＝29歳：「紅児会」を解散、

第一次大戦始1914＝30歳：日本美術院再興とともに同人となり「御産の椿」を発表、以後大和絵を基礎として、古典追求により新生面をひらく画風は小林古径、前田青邨らとともに新古典主義と呼ばれ、院展の主流となる。靱彦画の特質の一つである柔らかさのうちに強靱なものを秘めた描線と温雅な色彩、その気品を速水御舟は「まねのできない馥郁たる香り」と称えている。

民本主義・・・1916＝32歳：今村紫紅が没し、追悼展覧会に「今村紫紅像」を出品。

ベルロ条約・・・1919＝35歳：結婚。

大暴落・・・1920＝36歳：

原敬首相暗殺1921＝37歳：

水平社結成・・・1922＝38歳：新潟県出雲崎の「良寛堂」を設計。

関東大震災・・・1923＝39歳：関東大震災で大磯の自宅が全壊。原家の援助を離れる。

治安維持法・・・1925＝41歳：「日食」、

金融恐慌・・・1927＝43歳：大磯の安田善次郎邸内に観音堂などを設計。

共産党事件・・・1928＝44歳：「良寛遺墨集」を監修。大磯の自ら設計した画室付きの新居に入る。

世界恐慌・・・1929＝45歳：「風神雷神」、

海軍軍縮条約1930＝46歳：鍋木清方、小林古径、前田青邨らと七絃会を組む。

満州事変・・・1931＝47歳：

帝人疑獄事件1934＝50歳：「月の兎」。帝室技芸員を命じられる。

芥川直木賞始1935＝51歳：日本美術院会員となる。

二二六事件・・・1936＝52歳：改組帝展に審査員として「役優婆塞」を出品。帝展改革問題の調整に尽力。

日中戦争始・・・1937＝53歳：帝国芸術院会員となる。

健保+総動員1938＝54歳：「孫子勸姫兵」、

第二次大戦始1939＝55歳：文部省の法隆寺壁画保存委員会の委員となる。有志と「朱弦会」を結成、「紅梅」を出品。

大政翼賛会・・・1940＝56歳：「義経参着」に、

日米開戦・・・1941＝57歳：頼朝像を加えて完成させる。「黄瀬川の陣」で、

・・・・・・1942＝58歳：朝日文化賞。

年金+総武装1944＝60歳：「山本五十六元帥之像」。東京美術学校教授となる。

敗戦・・・・・・1945＝61歳：一時山中湖畔に疎開。第二次大戦後も制作はおとろえず、色調は華やかさを増し、

新憲法施行・・・1947＝63歳：東京国立博物館評議員。「王昭君」、

極東裁判決・・・1948＝64歳：文化勲章。この頃から、病がちとなる。

朝鮮戦争始・・・1950＝66歳：文化財審議会の専門委員となる。

独立回復・・・1951＝67歳：「窓」。*東京芸術大学教授を退官。国立近代美術館設立準備員に委嘱され尽力。

55年体制始・・・1955＝71歳：「鴻門会」、

国連加盟・・・・・・1956＝72歳：日本美術院が財団法人となり、その初代理事長に就任。

インスタアン・・・1958＝74歳：歌会始めの召人。「大観先生像」、

美智子妃・・・1959＝75歳：新東宮御所のため「富士朝陽」を制作。

安保闘争・・・・・・1960＝76歳：「紅梅」、

タイタイ病始・・・1961＝77歳：「茶室」、

全国総合計画1962＝78歳：「飛鳥の春の額田王」、

東京リボルヴ1964＝80歳：「安田靱彦展」。

大学紛争始・・・1965＝81歳：「安田靱彦展」。大磯町名誉町民。

美濃部都知事1967＝83歳：歌集「高麗山」。法隆寺壁画再現模写を監修。

震ヶ関バトル・・・1968＝84歳：「卑弥呼」、

大阪万博・・・1970＝86歳：「出陣の舞」などと多彩を極め、冷静な史眼をもとに具体像に至ろうとする構想力の豊かさを示した。

ドルジョク・・・・・・1971＝87歳：「草薙の剣」、

日中国交回復1972＝88歳：*最後の出品「鞍馬寺参籠の牛若」。容態が悪化。

田中角栄逮捕1976＝92歳：国立近代美術館で「安田靱彦展」後、

成田衝突・・・・・・1978＝94歳：心不全のため没した。

新潮日本美術文庫、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、